

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和元年8月

静岡県文化・観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター 公益財団法人静岡県文化財団

2 指定期間

平成29年4月1日～令和4年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 平成30年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和元年8月21日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
江成 博行	静岡フィルハーモニー管弦楽団 理事長
木ノ下 智恵子	大阪大学 共創機構社会学共創本部 准教授
木村 玲美	浜松総務部有限公司 代表取締役
坪池 栄子	株式会社文化科学研究所 研究プロデューサー

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

平成30年度実績は、評価点「4.4」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1. 0～1. 4	1. 5～2. 4	2. 5～3. 4	3. 5～4. 4	4. 5～5. 0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- 職員のサービス、専門的作業の質は高い。芸術監督の後任など、事業について企画力とリーダーシップをもって推進してほしい。
- 国際会議等と文化事業の両輪を担う県の中心的施設として20年間の実績を元に安定的な運営を行っている。今後は実績の分析と活用、時代のニーズに対応した取組みを期待する。
- 適切に事業が実施され、着実に成果を上げている。目標値も概ね達成されており、入館者数とコンベンション開催件数は未達だったが、質が向上していればポジティブに評価できる。質の評価指標の充実、推移の把握も必要。量より質、リピート率、売上げを見ることも大切である。
- アウトリーチ事業は、文化に触れる機会の地域格差を埋めることに大きく貢献している。間接的にはアウトリーチ事業の成果があがっていること、次のアクションにつながる施策を別途行っていることを訴えるべき。わが県は文化的にも豊かな人生を送れる存在でありたい。
- 国際会議誘致のような営業活動と、本来の文化活動という性格の異なるものを実施しているが、営業的な活動の部分で経営的な基盤ができることが望ましい。また、営業活動と文化事業の関係を再考し、将来的にはビジネスの部分は県が力を入れて、文化財団は文化事業に専心するようなあり方を考えてもいいのではないかと。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 数値目標の達成状況

項目	H30 計画	H30 実績	達成
(1)「上質」で「多彩」をより身近に			
入館者数	700,000 人	590,327 人	×
グランシップ企画事業入場者数	130,000 人	133,956 人	○
グランシップ企画事業子ども学生鑑賞者数	5,500 人	8,050 人	○
グランシップ企画事業における満足度	90.0%	93.9%	○
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応)	1.0%	0.11%	○
(2)「県民との繋がり」と「広域的な協働・交流」			

グランシップ企画事業における県民参加者数	2,039人	2,302人	○
コンベンションの開催件数	45件	40件	×
友の会個人会員数	7,948人	10,096人	○
サポート企業数（協賛、協力、法人会員等）	95社	137社	○
サポーター人数	180人	175人	△
インターンシップ受入れ人数	25人	27人	○
(3)「安全・安心・快適」な施設運営と経営の安定化			
施設稼働率	84.0%	84.6%	○
催事開催支援サービス取扱件数	1,800件	2,615件	○
施設管理瑕疵に起因する事故	0件	0件	○

※ 「○」 目標達成、「△」 目標達成率 90%以上、「×」 目標達成率 90%未満

[全 般]

- ・目標達成率 90%以上も含めると、14 項目中 12 項目で目標を達成しており、全体の 8 割以上達成している。
- ・項目別では「入館者数」「コンベンションの開催件数」の 2 項目の達成率が 90%未満であった。「コンベンションの開催件数」の増加が、「入館者数」の増加へと繋がるため、目標達成に向けて、引き続き取り組んでいただききたい。

ウ 実施業務別評価

(ア) グランシップ企画事業

a 上質で多彩な鑑賞事業

- ・入場参加者数目標 18,490 人に対して、19,335 人であり、目標人数を達成することができた。
- ・入場参加者のアンケートでは、「大変良かった」、「良かった」の回答が 97.1%と大変高い満足度であるため、今後も上質で多彩な公演を提供していただきたい。

b 誰もが参加できる県民参加事業

- ・入場参加者数目標 56,450 人に対して、62,288 人であり、目標人数を達成することができた。
- ・毎年人気のある「トレインフェスタ」では、静岡デスティネーションキャンペーンと連携するなど、より多くの方々に楽しんで頂くための工夫を行っている。

c ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業

- ・入場参加者数目標 43,670 人に対して、42,768 人であり、ほぼ目標人数を達成することができた。
- ・出前公演を行うことにより、西部や東部の方々にもグランシップ企画事業を身近に鑑賞してもらうことができた。
- ・出前公演やアウトリーチを行うことで、より多くの方々にグランシップ企画事業の魅力を伝えることができ、グランシップ公演鑑賞者数の増加にもつながるので、今後も積極的に実施していただきたい。

d 関心・理解・親しみを深める教育普及事業

- ・入場参加者数目標 9,560 人に対して、7,510 人であり、目標人数を達成できなかった。
- ・インフルエンザ等の影響により、目標人数を達成できなかったが、グランシップ企画事業に親しんでいただく内容となっているので、多くの方々に鑑賞してもらえよう力を入れていただきたい。

e 新たなグランシップファン獲得のための取り組み

- ・複数の公演をセットにすることにより割引となるセット券のバリエーションを増やすなど、鑑賞者が鑑賞しやすく、また、鑑賞者数増へもつなげる取組みを行った。
- ・中高生等の鑑賞支援策では、広報を強化することによって、「中高生鑑賞プラン」利用者が前年度と比べ3倍増となり、より多くの中高生に鑑賞の機会を提供することができた。今後もグランシップファン獲得のための様々な取組みに期待する。

f 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえた取り組み

ー文化プログラムに対する取り組みー

- ・グランシップオリジナル文化プログラムに取り組み、文化プログラムを盛り上げるために努めている。
- ・2020 年に向けて、関係機関と連携して事業を展開している。
- ・これからも文化団体の中心となって、文化プログラムに取り組んでいただきたい。

(イ) 文化支援

a ふじのくに文化情報センターの機能強化

- ・WEB サイト「ふじのくに文化情報」のアクセス件数が、前年度に引き続き増加している。利用促進のための様々な取組みによるものであり、この調子で運営していただきたい。
- ・「こかげのまなびば」では、文化団体のメンバーや芸術家との調整を行いながら、年間 24 回も開催しており、交流と研修の場づくりとして定着してきている。
- ・「ふじのくに文化情報フォーラム」では、新たに運動した「個別テーマ実践プログラム」を全 4 回にわたり実施するなど、自ら課題解決方法を考える実践的な研修に取り組んだ。

b 自主企画事業を活用した人材育成

- ・インターンシップ受入れ人数が目標 25 人に対して、27 人であり、目標人数を達成することができた。
- ・新たに「親子で楽しむロビーコンサート」を開催するなど、若手アーティストの育成に寄与するとともに、子育て世代からも子連れ気兼ねなく演奏を聞くことができると高い評価を得ている。

(ウ) 貸館業務

a 積極的な営業活動

- ・積極的な営業活動を行うことにより、例年開催される催事の継続予約確保に努めている。
- ・コンベンションの開催件数は前年度の 40 件から件数を落とさず維持しているため、目標の 45

件に向けて積極的な営業活動に取り組んでいただきたい。

b 大規模催事等の誘致

- ・大規模催事誘致に向けて営業活動に力を入れており、国際ミーティングエキスポ（IME）では、全国大会が平成 29 年度の 1 件から 2 件開催へと増加した。
- ・これからも営業活動に力を入れ、大規模催事誘致に向けて頑張ってください。

c 顧客サービスの一層の向上

- ・利用者会議や利用者アンケートの意見をもとに、顧客サービス向上に努めている。
- ・利用者から好評を得ている催事開催支援サービスでは、メニュー新設やサービス拡充を行っており、利用者のことを考えて取り組んでいる。

d 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえた取り組み

ー首都圏からのコンベンション誘致ー

- ・県文化プログラム推進委員会が計画している県域プログラムのグランシップ開催を調整し 5 事業のうち、2 事業をグランシップ開催とすることができた。
- ・県、市町及び関係団体と連携して誘致体制の強化を図り、1 件の誘致に成功した。今後も協力して、コンベンション誘致に励んでいただきたい。

(エ) 維持管理

a 安心・安全・快適な施設

- ・前年度に引き続き、計画的な修繕や迅速な対応により、施設管理瑕疵に起因する事故は 0 件であった。
- ・故障による会議室等の利用不可も発生しておらず、利用者が安心して使用できる施設を維持している。

b ユニバーサルデザインに配慮した施設運営

- ・常に外国の方や障害のある方を意識した施設運営を心掛けている。
- ・これからも細かい配慮を取り入れ、誰もが使いやすい施設運営に期待する。

c 省エネルギーと環境負荷の低減

- ・館内スタッフが省エネルギーを意識することにより、施設全体でエネルギー削減に取り組んでいる。
- ・施設の利用状況が年度により異なるため、単純に比較は難しいが、今後も省エネルギーを意識して運営していただきたい。

(オ) その他運営に関する業務

- ・新たに Instagram による広報を取り入れるなど、時代のニーズに合った手段により、広報を行っている。
- ・サポーター人数は、目標人数までは達していないが、前年度よりも増加し、目標まであと一歩

である。目標達成に向けた取組みを継続していただきたい。

- ・グランシップ友の会個人会員については、入会促進キャンペーンなどの取組みにより、1年間で2,180人と大幅に会員数を増やし、5年間での目標であった1万人を2年目にして達成することができた。

(カ) 運営体制及び組織

- ・屋外トイレ付近で発生した小火については、普段からの危機管理対策により、周辺の草木に燃え移ることもなく、被害を最小限におさめることができた。
- ・経営面についても、補助金確保や適切なコスト管理により、安定した経営を維持している。